

市民が作った「直方歴史かるた」



㊦ 会いたい人と待ち合わせする車寄せ

㊧ 道すじに出店にぎわう五日市

明治から昭和にかけて直方市は筑豊の石炭の集散地となり、筑豊石炭鉱業組合が置かれるなど炭鉱の町として栄えました。また鉄工業、商業の町としても発展してきました。このふるさとの歴史を、遊びながら若い世代に伝えようと、今年7月に市民ボランティア「車寄せを未来に活かす会」とプロジェクトまちづくり班の九州大学の学生が協力し、かるたを作りました。絵札は市内在住のイラストレーターに依頼し、市民に読み札を読んでもらうYouTubeも発信しています。「車寄せ」とは、旧直方駅舎に設けられていたもので、鉄道の町直方のシンボルとして、2020年に新直方駅前に移転、保存されています。

㊨ 須崎町林芙美子が暮らしたところ

㊩ 堀三太郎の屋敷のなごり歳時館



「直方歴史かるた」原画展

場所：直方市立図書館前ロビー・筑豊文庫資料室

期間：11月12日（火）～11月26日（火）

「座談会 直方歴史かるたを作ったら

～ふるさとの歴史とまちづくりへの思い～

会場：筑豊文庫資料室 日時：11月16日（土）10時30分～12時

車寄せを未来に活かす会の皆さんに語っていただきます。



筑豊の民話 ～くねんぼ～



福岡藩の家老の加藤司書が、旧若宮町の犬鳴に建てたご別館に殿様が来られた時、里の者が殿様の好物をお尋ねすると、泥鰌汁が食べたいとのこと。しかし泥鰌は水のきれいな犬鳴には居なかったので、宮田まで出かけてやっと泥鰌汁を作って差し出しました。殿様はたいそう喜ばれて召し上がりましたが、「これにくねんぼを加えると、もっとうまい。くねんぼを持ってまいれ」と言われました。くねんぼはいい香りのミカンの一種ですが、犬鳴の村人は見たことがありません。そこで村一番の物知りの長老に相談しました。

村人たちは殿様に「くねんぼはございませんが、はちねんはんぼうはございます」と申しあげました。殿様が不思議に思いながらも「それを持って」と言われると、村人はうやうやしく一本の担い棒を捧げ持ち、「これはこさえてから八年半たった肥たごかつぎの棒でございます。村にはこれより古い棒はございません。どうかこれを九年棒（くねんぼ）として、お取り上げください」と言ったそうです。

【基本情報】 ◇美術工芸品 《所在地》直方市植木 《指定年》1962年4月



出生不明。延喜末年（920年頃）20歳のときに尾張の国分寺に入り剃髪し、自らを空也と号したといわれる。山野で修行を重ね、仏像を背負い、法螺を吹き、念仏を唱えながら諸国を巡り、野に捨てられた死体を火葬し供養したといわれている。

空也上人は念仏踊りの始祖といわれ、植木寺中とよばれた人々に信仰されていた。なお、県無形民俗文化財に指定されている「植木三申踊り」は、この念仏踊りの流れをくむものといわれている。

この像はお堂に祀られており、施錠されているため、常時見学することはできません。

参考：『直方市史 上巻』NL219ノ

「直方市バーチャルミュージアム」<http://nogata-virtualmuseum.jp/assets.php?no=164>

はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。
郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

『忘れじの花 戦後北九州に光を灯した少女歌劇の足跡』

北九州市立八幡図書館／制作・編集・発行（N775キ）

2022年度開催の「第26回図書館を使った調べる学習コンクール 調べる学習部門 大人の部」にて、文部科学大臣賞を受賞した本作品は、北九州市立八幡図書館の職員の母親が、戦中から戦後にかけて八幡市を拠点に活動していた「小柳少女歌劇団」に所属していたという話を聞いたことがきっかけで、調査することになったものであり、受賞後にさらに調査が進められ、加筆修正され発行された本書。

かつて、北九州（特に八幡・戸畑）を拠点に数多く存在していた少女歌劇団のことが写真や当時の雑誌記事などとともにまとめられている。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902